2課

7月9日

来(き)るべき試練

安息日午後 7月2日

暗唱聖句

愛する者たちよ。あなたがたを試みるために降りかかって来る火のような試錬を、何か思いがけないことが起ったかのように驚きあやしむことなく、むしろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど、喜ぶがよい。それは、キリストの栄光が現れる際に、よろこびにあふれるためである。(1ペテロ4：12、13、口語訳)

愛する人たち、あなたがたを試みるために身にふりかかる火のような試練を、何か思いがけないことが生じたかのように、驚き怪しんではなりません。むしろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど喜びなさい。それは、キリストの栄光が現れるときにも、喜びに満ちあふれるためです。(1ペトロ4：12、13、新共同訳)

今週の聖句

1ペトロ4：12～19、1ペトロ5：8～11、ローマ1：21～32、エレミヤ9：6～15(口語訳9：7～16)、2コリント12：7～10

今週のテーマ

化学の実験室では、さまざまな物質が小さな容器に入れられ、高温で熱することがあります。容器が熱くなるにつれて、物質は溶けたり、シューっと音を立てたり、パチパチはねたり、あるいは明るく燃えたりと、物質の素材によって異なった反応をします。この容器はるつぼ(crucible)と呼ばれます。

英語の“crucible”を辞書で引くと、①物質を高温で溶解させるために用いる容器、②厳しい試練、③集中的な力を加えることによる相互作用によって変化や発展が生じる場所、または状態と定義されています。

これらの定義はまた、私たちの霊的生活に起きる事がらを理解する助けとなります。今週私たちは、人が困難に遭ったり試練を経験したりするとき、変化し、発達し、品性が成長するといったことが突然起きる理由に焦点を当てます。この学びは、神が私たちの人生にどのようにかかわっておられるかを知る助けとなり、私たちが試練に遭うとき、どう対処すべきかのヒントとなるでしょう。

今週のポイント

私たちが人生を通して経験する困難な時を生み出す原因とは何でしょうか。

日曜日　7月3日　驚き

「愛する人たち、あなたがたを試みるために身にふりかかる火のような試練を、何か思いがけないことが生じたかのように、驚き怪しんではなりません」(1ペト4：12)。

驚き、それも痛みを伴う驚きはさまざまな形でやってきます。突然あなたの前に飛び出す車。突然の解雇通告。健康診断による思いがけない結果通知。相思相愛だと思っていた相手の裏切り。予期していなかったものほど、その痛みの程度は増幅されるものです。

今週私たちは、そのときに驚かなくてもいいように、いくつかの特別な困難な状況または試練に注目します。

初めに、1ペトロ4：12に戻りましょう。ここに出てくるギリシア語の「驚き怪しむ」は「異質な」あるいは「外来の」を意味します。ペトロは読者に、火のような試練や苦しい経験が、クリスチャン経験にとって異質なものだと考えてしまう罠(わな)に陥らないように勧告しています。むしろ、それらは普通のこと、つまり予期できるし、予期すべきことだと考えるべきだというのです。

ここで「火のような試練」と訳されているギリシア語は、「燃えるもの」を意味し、別の場所では「炉」と訳されています。このように、信仰のために受ける苦しみの経験は、火で「精錬する」過程、すなわち「るつぼ」で熱する過程だと考えることができます。

私たちの多くが苦しみに遭って驚くのは、クリスチャン人生をあまりに単純化しているからです。私たちはそこに二つの勢力があるのは知っています。すなわち、善なる神と悪なるサタンです。しかし、私たちはしばしば、すべて良いと感じるものは神の箱に、悪いと感じるものはサタンの箱に自動的に整理してしまいます。しかし人生はそんなに単純ではありません。神の箱またはサタンの箱に何が入っているかを自分の感情で決めることはできません。神と共に歩むことは、時には挑戦的で困難なことにもなり得ます。さらに、サタンに従うことで大きな報酬を得ることができるように思えることもあります。正しい人であったのに苦しみを受けたヨブは、この事実を次のように表しました。「なぜ、神に逆らう者が生き永らえ／年を重ねてなお、力を増し加えるのか」(ヨブ21：7)。

ペトロは、試練はキリストのために立つことの結果であると述べました。しかし試練に遭うのには他の理由もあります。1ペトロ4：12～19から、厳しい試練に遭っても驚く必要はないことを友人に上手に説明できるでしょうか。

月曜日　7月4日　サタンの試練

「身を慎んで目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています」（1ペト5：8）。

問1　上の聖句はあなたに何を語りかけていますか。あなたはどれほど真剣にこの聖句を受け止めているでしょうか。このメッセージに従ってどのようなことをしていますか。

あなたは飢えたライオンを見たことがありますか。狙った獲物は何でも捕らえて食らいつこうと身構えているのですから、それは恐ろしい存在です。ペトロは、サタンも同じようにしてうろつき回っていると言います。辺りを見回せば、彼の殺意の結果が目に入ってきます。死や苦しみ、そして捻じ曲げられ、ゆがめられた道徳と価値観がいたるところに見られます。そのようなサタンの仕業から目を背けることはできません。

問2　1ペトロ5：8〜11を読んでください。クリスチャンはこのうろつきまわるサタンにどのように対抗すれば良いのでしょうか。

問3　神は苦しむ者たちにどのような約束を与えておられますか（1ペト5：10）。

ペトロはこの聖句を、クリスチャンの信仰に対するサタンの攻撃という文脈で書いています。すでに学んだように、サタンはあらゆる攻撃の手を尽くして働いています。そのような敵が存在するという現実とその力に警戒しなければなりませんが、私たちは決して失望してはなりません。サタンを撃ち破ったイエスを常に覚えねばなりません。サタンは敗れた敵であり、イエスとつながっている限り、信仰によって彼にすがっている限り、決して負けることはありません。なぜなら、十字架のゆえに、キリストの勝利は私たちのものだからです。

サタンがもたらす荒廃した罪の世で生きる運命として私たちが経験する苦悩に向き合うために、1ペトロ5：8〜11はどのように助けとなるでしょうか。

火曜日　7月5日　罪の試練

「不義によって真理の働きを妨げる人間のあらゆる不信心と不義に対して、神は天から怒りを現されます」（ロマ1：18）。

私たちのあらゆる行為には結果が伴います。炎天下にアイスクリームを持って立っていれば必ず溶けます。原因と結果は表裏一体です。私たちが望んでいることではなかったとしても、罪についても同じです。罪は常にその結果を刈り取ります。神は天に座して、罪を犯した人間にどのような罰を下そうかを考えているわけではありません。罪自体に備わっている結果を刈り取っているにすぎません。

問題は、多くの場合、私たちが何とか神を出し抜いて、結果を経験せずに罪を犯せると考えることにあるのです。パウロは、罪を犯すことには、永遠にいたる結果だけでなく、現在にも痛みと苦しみという結果を招くと断言しています。

問4　パウロはローマ 1：21〜32 で、人が罪に堕ちる過程とそれらの罪の結果を描写しています。祈りのうちに注意深くこの箇所を読み、特に罪の段階とその結果に焦点を当てて、パウロが言っていることを要約してください。

パウロはこの数節前に、罪の結果を「神の怒り」（ロマ1：18、口語訳）として描写しています。この「神の怒り」とは、単に神が、人間がまいたものを刈り取るのを許されることを意味します。クリスチャンのためであろうと、神は私たち自身の行為の結果である苦しみをすぐに取り除くとは限りません。多くの場合、神は、罪がどれほど深く人を傷つけ攻撃するかを私たちが理解できるように、私たちが自分の行為の結果を経験するのをお許しになるのです。

ここまで神の道徳律を破った結果について考えてきましたが、神の健康に関する律法を破ることについてはどうでしょうか。私たちの体は神の宮です。私たちが健康的な食物を摂ることや運動を怠ること、あるいは常習的な過度の労働もまた神に対する罪であり、「るつぼ」の条件を整えるという結果を招きます。

あなたの人生で、自分自身の罪の直接の結果を刈り取ったことがありますか。二度とそのようなことを繰り返さないために何を変えねばなりませんか。

水曜日　7月6日　清めの試練

「それゆえ、万軍の主はこう言われる。見よ、わたしは娘なるわが民を／火をもって溶かし、試す。まことに、彼らに対して何をすべきか」（エレ9：6〔口語訳9：7〕）。

「神の御霊が主の御言葉を通してあなたの心に痛みを感じさせるなら、それは、何か、完全に息の根を止めたいと主が望まれる何かが、あなたの中にあるに違いないということなのです」（オズワルド・チェンバーズ『いと高き方のもとに』271ページ、英文）。あなた自身が経験した清めの痛みと照らして、上の引用文と聖句はあなたにどのように響くでしょうか。

問5　エレミヤ9：6〜15（口語訳9：7〜16）を読んでください。神は、「娘なるわが民〔ユダとエルサレム（英語新国際訳）〕」を「火をもって溶かし〔清め（英語新改訂標準訳）〕、試す」（エレ9：6〔口語訳9：7〕）とあります。清めの理由として、神はどのような二つの理由を挙げておられますか（エレ9：12、13〔同9：13、14〕）。その清めはどのように行われますか（エレ9：14、15〔同9：15、16〕）。

神の清めと試しは激烈な行為を伴います。この清めと試しが「るつぼ」のように感じられるのには、おそらく三つの理由が考えられます。第一に、神が私たちに自分の罪を気づかせる状況をお許しになるとき、私たちは痛みを経験します。この少し前に、エレミヤはみじめな気持ちで次のように書いています。「鉛はふいごで起こした火に溶ける。彼らも火で試されたが、空しかった。彼らの悪は取り除かれることがなかった」（エレ6：29）。このように、私たちに気づかせるためには、思い切った行為が必要です。第二に、私たちは、はっきり示された自分の罪を自覚するとき、苦悩を覚えます。第三に、私たちは今までと違う生き方をしようとするときに欲求不満を覚えます。自分の一部であったようなことを手放すことを選び続けることは、極めて不快であり難しいはずです。

神はあなたが今格闘している罪を清め、試みるために何をしようとしておられるでしょうか。神がイスラエルを清めるために取られた徹底的な行為に及ぶ前にあなたには何ができるでしょうか。

木曜日　7月7日　成熟の試練

「また、あの啓示された事があまりにもすばらしいからです。それで、そのために思い上がることのないようにと、わたしの身に一つのとげが与えられました。それは、思い上がらないように、わたしを痛めつけるために、サタンから送られた使いです」（2コリ12：7）。

切り倒すことと剪定（せんてい）することは大きく違います。私たちはいらなくなった植物を切り倒します。しかし、より多くの実を結ばせたいと思うときに剪定をします。そして、これらの作業には共によく切れる刃物を使います。剪定のために植物のある部分を切り落とすことは、未熟な庭師にはその植物を痛めつけているように思えるでしょう。霊的な文脈で、ブルース・ウィルキンソンはこのことを次のように書いています。「あなたは神にあふれるばかりの豊かさを祈り求め、もっと御子のようにしてくださいと願っているでしょうか。もしあなたの答えが『はい』なら、あなたは剪定ばさみで刈られることを求めているのです」（『ぶどうの木の秘密』60ページ、英文）。

人々はパウロの言う、彼の肉体に与えられた「一つのとげ」（2コリ12：7）は実際に何を意味するのだろうかと考えてきました。敵からの絶え間ない攻撃を受けていたという説や、話すことが苦手だったという説もありますが、実際には視力に問題があったのではないかと考えられています（『SDA聖書注解』第6巻1107ページ、英文参照）。驚くべきことに、パウロは彼の「とげ」が「与えられ」たものであると信じていたのです。

問6　パウロが言う「与えられた」とはどういう意味でしょうか。だれが与えたのでしょうか。神はどのようにしてそのとげを彼の益となるように用いることがおできになったのでしょうか。

パウロは彼の「とげ」が、ある特定の目的、すなわち「思い上がることのないように」（2コリ12：7）与えられていると言っていることに注目してください。彼が犯した過去の罪のゆえにではなく、彼が将来罪を犯さないようにするためでした。パウロは自分が生来、罪に対する一つの弱さをもっていることを知っていました。ですから、この「とげ」が彼をその弱さから守ることができたのです。

もっと多くの義の実を結ぶためには、あなたのどの部分を神に「剪定」していただく必要があるでしょうか。

金曜日　7月8日　さらなる研究

「人の心の中をご覧になる神は、人間が自分自身を知る以上に人間の性質を知っておられる。正しく指導すれば、神の働きを進展させる能力や感受性を持っている人々がいることを知っておられ、摂理によってこうした人を、いろいろ異なる地位や各種の境遇に導かれるのであるが、それはその人自身知らなかった自己の欠陥を発見するためである。神はこうした欠陥を改める機会を与え、神の働きに適する者となる機会を与えられる。そして、清められるためにしばしば、火のような試練が彼らを襲うことを許されるのである」（『ミニストリー・オブ・ヒーリング』新装版315ページ）。

話し合いのための質問

❶ **罪の実を刈り取ることは本当につらいものです。私たちは「こんな私が神との正しい関係に再び戻ることなどできるでしょうか」と問います。神は、そのような試練の時にもあきらめず、耐え抜くことができるよう、どのような約束をしてくださっていますか（ロマ5：1～11参照）。上記のように問う人にあなたはどのように答えることができるでしょうか。**

❷ **上の引用文の中でエレン・ホワイトが言う「摂理」とは何を意味しているのでしょうか。この摂理はどのように働くのでしょうか。何かが起きた時、それが神の摂理によるとどうして知ることができるのでしょうか。あなたは神の「摂理」の導きによる試練を経験したことがありますか。今回学んだことをクラスで分かち合いましょう。自分の経験が「神の摂理」によるものかどうか、確信が持てない人にあなたはどのような助言ができますか。**

❸ **あなたが、今まさに試練の中にある人を知っているとして、何がその試練を招いたのかは重要なことだと思いますか。その結果を招いた原因が何であれ、その人とその人の試練に対して、どのようにかかわることができるでしょうか。**

❹ **南米に住むあるクリスチャン青年は、厳しい試練を経験した後ヨーロッパに移住し、「私は自分のなきがらを南米に置いてきました」と言いました。これはどういう意味でしょうか。なぜ私たちも皆彼のような経験が必要なのでしょうか。そのような経験において試練はどのような役割を果たすのでしょうか。**

❺ **理由は何であれ、病院やその他の場所で試練の中にいる人々を訪ねて助け、慰め、励ます計画をクラスで話し合って立ててみましょう。**

学校でのいじめ

オリベイラは、ジュニオールを心配していました。陽気だった15歳の少年が、自宅では反抗的な態度をとるようになっていたからです。母親の心配をよそに、彼はアフリカとブラジルの格闘技であるカポエイラを習いたいと言い始めました。オリベイラが、「エドゥアルド、私はジュニオールが格闘技を習うのは反対だわ」と夫に相談すると、彼は、「ジュニオールは、学校でいじめられているみたいなんだ。だから武道を習いたいらしいよ」と答えました。

翌日、母親はジュニオールを学校に迎えに行き、待っている間にジュニオールの同級生クリファーソンの母親であるディルマに胸の内を打ち明けました。「息子にはいい友だちがいないんです」。数日後、クリファーソンはジュニオールを自分の家に誘いました。ジュニオールがクリファーソンの家に行くと、数人の男の子たちが対戦型のゲームをしていました。数分後、男の子たちはゲームをやめて聖書を開き、イエス様のことについて話し始めました。「君たちはクリスチャンなの？」とジュニオールが尋ねると、「そうだよ。僕たちは、いつもゲームをしながらイエス様のことを話してるんだ」とクリファーソンが説明しました。新しい友だちが気に入ったジュニオールは、それからも一緒に遊ぶようになりました。

ある日、クリファーソンの母親が、家族で通っていたセブンスデー・アドベンチストのアルファ・コミュニティー教会にジュニオールを誘いました。ジュニオールは、クリファーソンと過ごす時間が増えるのがうれしかったので、教会に行くようになり、カポエイラ教室に行くのをやめました。土曜日になるとジュニオールが出かけることに気づいたオリベイラは、何をしているのか尋ねました。ジュニオールが、安息日の礼拝をライブ配信しているその教会のYouTubeチャンネルを母親に見せると、それ以来、彼女はそれを見るようになりました。

数週間後の安息日、オリベイラはジュニオールに付き添って教会へ行き、安息日学校のクラスに参加しました。教師が読んでいたヨハネの黙示録を、手渡された聖書で開くと、彼女の目に、「おくびょうな者、不信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、みだらな行いをする者、魔術を使う者、偶像を拝む者、すべてうそを言う者、このような者たちに対する報いは、火と硫黄の燃える池である。それが、第二の死である」（黙示録21：8）という箇所が飛び込んできました。「夫の運命だ。火の池で滅びてしまうんだ」と思い、背筋が凍りました。その日から、オリベイラはエドゥアルドのために祈り始めたのです。（アンドリュー・マクチェスニー）